

第1次木津川市総合計画中間案住民説明会開催結果要旨

会議名	第1次木津川市総合計画中間案住民説明会（4回目）		
日時	平成20年11月29日(土) 午後7時から午後9時まで	場所	中央交流会館 多目的ホール
出席者	行政参加者	河井市長、今井副市長、久保教育長、川西総務部長	
	事務局	田中市長公室長、大西学研企画課長、坂元企画政策係長、 中島主任	
	庶務 (事務局)	企画政策係：野田主任、西村主任 情報推進係：熊木係長、石本主任、速見主任 企業立地推進室：永澤主任	
	ワーキング	-	
参加者	30名		
議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 市長あいさつ</li> <li>3. 市長説明</li> <li>4. 質疑応答</li> <li>5. 閉会</li> </ol>		
開催結果要旨	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会 司会より、開会を宣言した。</li> <li>2. 市長あいさつ 市長より、説明会の開催にあたり、あいさつがあった。</li> <li>3. 市長説明 市長より、プロジェクターを用いて第1次木津川市総合計画中間案について、説明があった。</li> <li>4. 質疑応答 主な意見・質疑等は次のとおり。（○…質疑・意見、▶…質疑に対する返答） ○総合計画審議会において、中間案をまとめるために、市内視察や研修会等は実施したのか。これまでの取り組みと、議論の論点を聞かせていただきたい。 また、総合計画審議会会長は、住民説明会に参加されないのか。 ▶ 審議会では、市域を一望できる山城町神童子三上山の展望台から、全景を見ていただき、その感想を踏まえた議論を行ってきた。 また、市民、中学生、事業者を対象としたアンケート調査を実施し、その結果を踏まえ、各分野に精通された委員の皆様は、専門的な視点での議論もしていただいた。 全体としては、中間案の答申までに9回の審議会を開催し、地域審議会への説明・諮問により、地域のご意見も踏まえながら、中間案の各章に十分な時間をかけて審議いただいた。 今回の住民説明会は、審議会からの答申を受け、行政が開催するものであるため、審議会会長は参加していません。（事務局）  ○パブリックコメントや住民説明会で、市民の意見を聴く機会をもたれた事は、大変有意義だと考えています。そこで、3点ご質問いたします。</li> </ol>		

・豊かな自然や緑などを守っていく姿勢が示されているが、それを象徴するような美的環境を連想させるフレーズをこの計画に冠してはどうか。

・市役所庁舎周辺の住環境や美的環境のあり方は、どのように考えているのか。  
・若者が戻ってきたくなる、住み続けたくなるまちを実現していただきたい。そのための施策は盛り込まれているか。

▶ 庁舎周辺は、シビックゾーンと考えており、木津駅前区画整備事業に併せ、庁舎周辺までの市道の拡幅、歩道整備を実施していく。また、その他の庁舎周辺道路についても、拡幅整備し、駅前からの一体的な拠点として整備する。

今後、自治体間競争が激しくなる中で、市の魅力を高める取り組みが必要であり、様々な補助制度を活用しながら、地域住民の協力の下、地域資源を活用したまちづくりに取り組んでいく。

特に、若者の定住には雇用の確保が不可欠であり、現在も、学研都市の魅力を活かしながら企業誘致を積極的に進めているが、さらに雇用創出効果が高い業種の誘致にも取り組みます。企業誘致と併せ、子育て支援施策の充実にも取り組んでいきます。(市長)

▶ ・中間案に示した木津川市の将来像、「水・緑・歴史が薫る文化創造都市」が、本市がめざしていく美的環境を表したフレーズそのものであると考えており、基本計画において、実現のための具体の施策を示しています。

・庁舎周辺については、将来都市構造に示すとおり、中心都市拠点と位置付けており、基本計画第5章「連携を強め地域を支えるネットワークの創造」(3)②において、庁舎周辺の整備を具体の取り組みに位置付けています。

・雇用対策の充実についても、基本計画第2章に項目を掲げており、学研都市の整備とともに、積極的に取り組んでいくこととしております。(事務局)

○近鉄木津川台駅前の整備について、3点ご意見を申し上げます。

・木津川台駅は、田園地帯の中に立地している。駅に通じる藤木川沿いの道路は、増水時に水没の恐れがあり、夜間は暗いため危険である。このようなアクセスの改善が急務であり、本年度にアプローチ道路の基本設計を実施されているため、基本計画の記述を一步踏み込んだ内容に改めていただきたい。

・同駅は、学研精華・西木津地区のみならず、木津川市の西の玄関口となる駅である。そのため、今後10年間だけでなく、20年・30年の長いスパンで、周辺道路整備や駅のターミナル機能を強化するための計画を立て、総合計画に盛り込んでいただきたい。

・「関西文化学術研究都市サード・ステージ・プラン」では、同地区が学研都市の中心クラスターに位置付けられており、総合計画においては、基本計画97ページに施策の主要目標を掲げるべきである。

▶ 木津川台地区のご意見として、しっかりお聞かせいただいた。

同駅の利便性は不十分であると認識している。現在、JR木津駅前の整備を実施しているが、木津川台駅を本市の西の玄関口と位置付け、今後、整備していきたい。

20年・30年の長期計画については、まず、今後10年間で、どの事業に重点的に取り組むかを明らかにすることが必要であると考えており、財政面との整合を図りながら、実施計画を立て進めていく。

木津川台駅周辺の整備について、現時点で実施時期までは明らかにできないが、周辺の土地利用のあり方を含めて、検討していきます。(市長)

▶ ・アプローチ道路については、どのような方法が良いのかということも含めて、

「検討」と表現している。総合計画が議決されれば、都市計画マスタープランをまとめることになるが、その検討過程において、もう少し具体の議論を進めたい。

・総合計画は、まずは10年間の計画として策定する。これ以上の長期については、社会経済情勢も不透明であり、明記しづらいものがある。基本計画については、社会経済情勢等に対応するため、5年後に見直すこととしている。

○精華・西木津地区は学研都市の中心クラスターであると認識している。木津川台駅については、本市の西の玄関口として、市の関係課と十分調整を図りながら、その整備に取り組んでいく。(事務局)

○木津川台地区では、地区の7つの区の区長・副区長が参加する「近鉄木津川台駅前まちづくり協議会」を結成し、今後のまちづくりを地域住民が考えている。

今後も、行政と一緒にまちづくりを考えたいので、協力していただきたい。

○重点戦略の視点に示された「一体的なまちづくり」は、大変重要であると思う。

しかし、その視点を重視するのであれば、「関西文化学術研究都市まるごと活用戦略」ではなく、「地域間連携強化戦略」等が重点戦略の上位に位置付けられるべきではないか。

・平成30年の目標人口が8万になっているが、現在の人口推移から、地域別では過疎化する地域もあると考えられる。どのような対策を考えているのか。

・医療の充実は、市民にとって大変重要であり関心の高い施策である。成果指標では、学校給食での地産地消の推進等は具体的な指標が設定されているが、医療の充実については、アンケート結果に基づく抽象的な指標になっている。

医療への多様化する市民ニーズを反映し、具体的な項目を掲げるべきではないか。

▶まちづくりの重点戦略の順番にはこだわっていない。すべてが重要な取り組みであり、重点的に進めていく。

・地域格差の問題については、現在、バス運行の改善のため、市域の一体的な再編に取り組んでいる。このような取り組みにより、人口が集中する地域と周辺地域との一体感を形作っていききたい。

・医療については、市民ニーズが多様化している。山城病院などの拠点となる施設と、市内に点在する診療所との連携を図りながら、医療に対する安心感を高める取り組みを進めていく。(市長)

▶まちづくりの重点戦略は、6つすべてが並列であると考えている。

・人口目標については、旧町で策定していた総合計画の人口も考慮し、その後の社会情勢や人口動態の変化を加味して、平成30年において8万人に設定した。

また、周辺地域については、各支所に地域審議会を設置し、合併協定の進捗状況等をチェックしていただくとともに、広く地域活性化のための意見を聴いて、まちづくりを進めていく。

・医療に関する成果指標については、総合計画の検討に際して実施したアンケート調査で、医療に関する満足度を評価する項目を設定しており、その内容に基づいて設定している。

待ち時間の短縮や高度医療の充実など、市民により医療に対するニーズが異なるため、一般的な内容にしている。

○合併時の議論を通して、旧町それぞれに成熟した財産があり、その境を越え、大きく包み込む力を得て新市が誕生したと感じた。

中間案は、企業誘致等が進めば、必然的に人口や観光客が増えるように読めるが、全国的な景気悪化や人口減少が進む中で、不動産動向などの実体経済に左右される部分もある。人口が増えなくても大丈夫な計画にする必要がある。

また、まちづくりの基本原則には、市民の参加・参画が掲げられているが、今回の住民説明会への参加が低調である。今後、さらに効果的なPRが必要である。

▶ 旧3町には、文化財をはじめとするすばらしい財産が点在している。これらを、まちづくりにどう活かしていくかが大切である。本日も、恭仁宮で発掘成果の報告会があり、多くの方が参加された。

再来年開催される平城遷都1300年祭では、恭仁京との都のつながりを活かして、市内全体の文化財・観光のアピールをしていきたい。

平成23年にまち開きが予定されている木津中央地区は、計画人口が11,000人になっているが、現在の社会情勢ではすべて居住いただけるか確定的ではない。京都市に次いで豊富な文化財や、ノーベル賞受賞者も所属する学研施設などの地域資源を中心に、魅力あるまちづくりを進め、積極的にPRすることで企業誘致、雇用の創出につなげ、税収の増加を図っていきたい。

今後は、さらにおひとりでも多くの方にご来場いただけるよう、住民説明会などの周知を積極的に図っていきたい。(市長)

○中間案はすばらしいものになっていると評価しているので、しっかり実施してもらいたい。

しかし、住民説明会への参加が少ないことは残念である。多くの市民の意見を活かすために、タウンミーティングを実施して、地域の声を汲み取ってもらいたい。

・学研都市は栄えてきているが、木津地域においても旧集落が寂しい。木津駅東の土地利用を含め、活性化を検討していただきたい。

・将来像を実現する上で、現在の市の自然や緑の荒れた現状をしっかりと認識しておく必要がある。現状を踏まえた上で、農地を含めた緑の再生と保全に取り組んでいただきたい。

・教育の充実は、市の魅力向上に不可欠である。人口増加に対応した、学研地区での学校新設も必要であるが、旧市街地での教育施設の整備もしっかり取り組んでいただきたい。

▶ これまで、地域審議会でも総合計画について審議いただき、旧町の計画も踏まえながら、公募委員を含めた総合計画審議会において、市として重点的に取り組んでいくものをまとめていただいた。また、アンケート調査も実施し、パブリックコメントも実施してきており、一定市民の意見を踏まえた計画であると考えている。

・木津駅東については、現在市街化調整区域になっている。バスターミナルなどが完成し、東口からの利用が可能になったが、まだ不便であると認識している。今後、木津中央地区も整備されていくので、周辺住民の協力と理解を得ながら、整備の方向を検討していきたい。

・放置竹林の問題など、緑の荒廃は危惧している。一部の地域で対策を講じているが、全市的な取り組みには至っていない。今後、団塊の世代の大量退職が控えていることから、市民とともに農地を含めた緑の整備を検討していく。

現在、鹿背山地域において、市民とともに柿園の整備に着手しており、参考にしたい。

・旧市街地の学校施設の老朽化した現状は認識している。これまで、学研地区のまち開きにあわせて教育施設を整備してきたが、多くの財政負担が必要になっ

た。

限られた財源の中で、まずは、既存施設の耐震化に取り組むこととし、計画的に整備していく。(市長)

▶ 総合計画の策定にあたっては、まず市民の声を聴いてまとめていく方針で、アンケート調査を実施し、公募委員を含めた審議会や庁内の検討組織で議論して、中間案を取りまとめた。

さらに市民の皆様のご意見を踏まえた計画とするため、中間案概要版を全戸配付し、パブリックコメントと住民説明会を実施した。

今後、いただいたご意見を総合計画審議会へ報告し、取り扱いを審議していただいた上で、最終案を取りまとめていく。

総合計画が議決されれば、各施策の個別計画も検討されるので、審議会に公募委員を取り入れるなどし、市民の声を聴きながら今後のまちづくりを進めていきたい。(事務局)

○・観光振興には、行政と観光協会などとの連携が必要である。また、観光の目玉として、恭仁宮や高麗寺の一部を復元することが必要である。そのためには、学研地区などの企業の協賛が必要であると考えるが、事業者へのアンケートは実施したのか。

・「子育て No, 1」の次は、「教育 No, 1」をめざすべきと考えている。特に、基礎学力の向上が必要であり、小学校 2 年生まで実施している補助教員を、地域ボランティアの活用等により 6 年生まで拡大するなどの、具体的な取り組みが必要である。

・総合計画審議会においては、公募委員は 3 名だけであった。各審議会において、公募委員の割合を増やすとともに、広く市民の声を聴く工夫が必要である。

▶ 9 月の組織改編により、新たに観光商工課を設置した。今後、平成遷都 1300 年祭に向け、今年度中に実行委員会を立ち上げて、大学や生徒、住民や企業の声を聴きながら、様々な角度から今後の観光施策につながるように検討していく。

恭仁宮跡や高麗寺跡の史跡整備については、財政負担を考慮しながら検討する必要がある。現在、恭仁宮跡では、地域住民がそばなどを栽培して地域を活性化する取り組みを進めており、これらも参考にしていきたい。(市長)

▶ 恭仁宮跡や高麗寺跡の活用方法については、専門家も含めて検討している。本日実施された、恭仁宮の発掘成果の報告会には約 120 名が参加され、大変関心が高い。これらの文化財を、市民・国民の財産として、大切に保存活用する方策を検討していく。

補助教員については、低学年の場合、1 クラス 31 名を超えると各クラス 1 名の補助教員が配置される、府の加配教員制度がある。3～6 学年については、全体で 1 名の配置であるが、学生ボランティアの力も借りながら、子どもが興味を持って学習に取り組める環境づくりに努めている。(教育長)

▶ 総合計画の策定に際して、200 社の事業者を対象にアンケート調査を実施している。その中では、行政との意見交換の充実を求める声もあった。そのような結果を踏まえ、基本計画の「まちづくりへの参画と協働の創造」において、「市民と行政の協働体制の確立」、「学校・企業等との交流連携」を施策の柱に掲げている。基本計画の具体の施策では、協働のためのルール作りも明記しており、その方針に沿って取り組みを進めていく。(事務局)

## 5. 閉会

	以 上。
そ の 他 特 記 事 項	特になし。